

[TOP](#) > [観光スポット](#) > [商店街、ショッピング](#) > ある夕暮れに見た、招き猫を探しに。鷺宮5丁目、熱意のコレクション

シェア

ツイート



## ある夕暮れに見た、招き猫を探しに。鷺宮5丁目、熱意のコレクション

2022.02.07 UP 西武新宿線沿線西エリア 投稿者：区民レポーターソルト

[\[観光スポット\]](#) [\[商店街、ショッピング\]](#) [\[区民レポーター\]](#)

猫が好きな区民レポーターのソルトです。

これまでの取材は都立家政が多かったのですが、次はどこに出かけようかと鷺宮や白鷺の地図を見ていたところ、思い出したことがありました。

数年前のことです。薄闇の時間帯にタクシーで新青梅街道を走っていました。信号待ちで止まったとき、ふと窓の外に目をやると、招き猫がたくさん置いてある場所を見たのです。

店か、あるいは何らかのイベントスペースか!? あれはいったい何だろう…と思ったのもつかの間、車は目的地へと走り出していました。

そこで今回、ネットで地図を見て、このあたりに違いないと思った場所を拡大していきますと、招福ビルという名称を発見。招福という名前は、まず間違いなくあの招き猫と関係があるはず。さらにその住所を頼りに検索をかけますと、以前は「招福民芸館」という名前で、縁起物が集められたギャラリーとしてメディアの取材を受けていたこともわかりました。

最近の情報がないためまだ営業中かどうかわかりませんが、善は急げで行動あるのみです。さっそく家から歩き出しました。

まずは西武新宿線「鷺ノ宮駅」へ。そこから新青梅街道まで北上して左折、さらに10分弱歩きますと、右手側に大きな猫の置物が見えてきます。

## 道に大きな猫を発見



鷺宮5丁目、新青梅街道沿いに大きな猫が現れました

ここです、ここに間違いありません！喜び勇んで入り口を探しました。

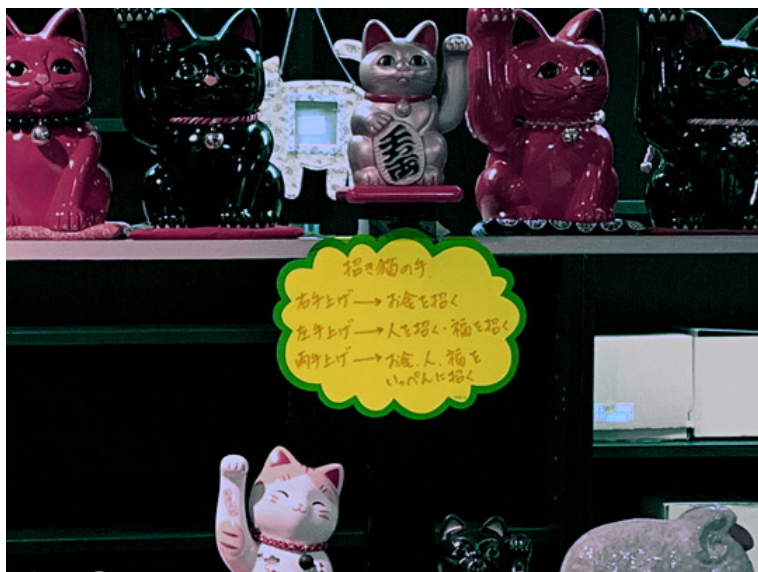
ところが、残念なことに名称の看板や営業時間などの表示がなく、ガラス戸の向こうに招き猫や民芸品が見えているものの、内部に灯りが点いていません。さてどうしたものかときよろきよろしていますと、入り口のドア近くに「招き猫の件は〇〇に」という手書きの案内が出ていることに気づきました。

徒歩で片道35分をやってきたものですから、チャンスが少しでもあるのならと、その場所を訪ねてみました。そして「写真を撮らせてください」と、お願いしたところご了解いただき、中に入れていただきました。

さて、いよいよ招き猫と対面です。

### 招き猫: 手の上げ方

…と、その前にみなさん、招き猫の手の上げ方でご利益に違いがあることをご存知でしょうか。ソルトはつい最近になって、商売をしている知人から教えていただいたばかりですが、こちらの棚にも表示がありました。



招き猫の手の上げ方(解説)



右手上げは、お金を招きます。

左手上げは、人を招き、福を招きます。

両手上げは、お金、人、福を、すべて招くのです。

上げているのがどの手であっても、「招いて」くれているのがうれしい。とても癒やされます。

## ひとつずつ集められたコレクション

さて、館内を拝見しましょう。猫、猫、そして干支などの招福の民芸品が並びます。撮影時は12月のクリスマス直前であったため、冬の衣装の猫たちが目立つところにいました。



クリスマスの服を着た招き猫

かわいいなあ…とにんまりしながら撮影を開始すると、鍵を開けてくださった方が「だいぶ減ってしまって」と、おっしゃいました。何のことだろうかとお話を伺いました。



鷺宮5丁目、招き猫のあるギャラリー

お話によると、以前は部屋の奥の壁一面の棚にも、招き猫があったそうです。もともとは、経営者の男性が何年もかけて集めた招き猫や開運グッズが並べられていたのですが、その方は経営から退き、その後に体調を崩したこと

もあって、ここに新たなコレクションが追加されることがなくなりました。現在あるものがすべて売られていったときは、店を閉じることになるかと思う、とのお話でした。

さみしいことではありますが、逆に考えれば、このタイミングで訪問ができたこと、そして撮影を快諾していただいたことは、とても運がよいことと思わずにいられません。この日にここを思い出したことそのものが、わたしにとって「開運」の先取りだったのです。



コレクションもすばらしいのですが、見せ方、並べ方にも熱意と愛情を感じます。







猫以外の開運グッズもあります。



これだけの数と種類を、ひとつずつ自分の足で集めた人の熱意。それが時代を経て、ひとつずつ誰かの手に渡っていく縁(えにし)。いったんはこの場所に集まり、そして次へと委ねられるひとつひとつの縁起物に、多くの思いがこもっています。

この場所に、来られてよかった。区民レポーターになって「次はどこに行こう」と考えるきっかけがあったからその縁です。

## あとがき 夕暮れに見た招き猫

さて最後に、わたしがなぜここを訪問したかったかについて、ご説明します。

数年前のとても寒い日の夕暮れでした。タクシーの中でわたしは疲れきり、気分も塞いでいて、しかも同乗者を目的地に降ろしたら逆方向の自宅までひとりで歩かなければいけない状況でしたので、「ついていない」と、ふてくされていたのです。

鷺ノ宮駅を過ぎ、新青梅街道で信号待ちで停車した車内から、道の確認で周囲を見ていたときです。あたりの薄闇とわたしの疲れた気分を吹き飛ばすような、明るく幸せそうな場所があり、それが今回わたしが調べて再訪したこちらの「招福民芸館」でした(現在は看板等は出ていません)。

迷子の山中で人家を見たような、意外な発見でした。周囲が薄暗いのにそこだけ明るくて、しかも猫が幸せそうで。そしてわたしは、ぐったりしていたのも忘れ「もうひと息だ、もう少しがんばって、今日も家に帰ろう」と、元気をもらったのです。

いつかは終了してしまうとのことですが、こうして招き猫や招福の民芸品たちは、その直前まで愛らしくここに輝きつづけることでしょう。2021年の12月に、こうして訪問できて、ほんとうによかったと思います。ありがとうございました。

### 招福民芸館 (現在は看板等は出ていません)

所在地 中野区鷺ノ宮 5-24-16 招福ビル 1F

アクセス 西武新宿線「鷺ノ宮駅」から徒歩13分 / 「下井草駅」から徒歩12分

定休日 日曜日。その他に不定休あり。

営業時間 昼間の時間帯に、入り口に呼び出し方法が書いてある場合は入店可能



※問い合わせ先の記載がない記事については、まるっと中野編集部までお問い合わせ下さい。

掲載場所近隣の区民の皆様にご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。

※掲載情報は全て記事取材当時のものです。